

令和 5 年度  
県立高等学校入学者選抜  
学力検査問題

国 語

注 意

1. 「始め」の合図があるまでは、問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は、表紙を入れて10ページあります。  
また、問題は大問【一】から【五】まであります。
3. 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入しなさい。
4. 「やめ」の合図で、すぐに鉛筆を置きなさい。

【一】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

※1 穂高で生まれ育った「僕」と一つ違いの姉「萬子」、毎年東京からたった一人で新幹線に乗ってやってくる親戚のリリーの三人は、夏の間いつも一緒に過ごしていた。「僕」はひいおばあさんの菊ちゃんの経営する「恋路旅館」に家族全員で住んでいたが、夏の間は子ども達専用の部屋「ドリーム」が与えられ、毎晩そこで寝泊まりした。旅館にはスバルおじさんをはじめいろいろな人が家族のように暮らしていた。

リリーと過ごす夏。

それは、一瞬一瞬がきらめきの連続で、毎日がボウケンだった。リリーは、なぜだか自然の中で遊びを見つけて天才だった。そういう意味では、田舎で生まれ育った僕や萬子の方がよほどひ弱で、逆に道具やゲームに頼った家の中で遊び方しか知らなかった。昔から穂高に暮らしている者にとって、自然はあるのが当たり前だったのだ。僕らの両親もどちらかというとそういう考えの一派で、豊かな自然を有り難く思うよりは、少しでも開放して都会に近付きたいと考えていた。池の表面に石を投げて遊んだり、川に入ってメダカやカニを捕ったり、花の蜜を吸ったり、向日葵の種を噛んだり、すべて最初にリリーがお手本を示してくれた。僕と萬子は、おっかなびっくりリリーの後に続くのが常だった。

恋路旅館の入り口には、巨大なクスノキが聳えている。その木に誰よりも高く登れたのもリリーだった。木登りも昆虫の捕まえ方も、全部リリーが先輩だった。

僕とは違う、川遊びをすれば、リリーが手で捕まえた魚をパンツの中に入れて悲鳴を上げた。木登りをして、枝に足をかけたまではないものの、その後下りられなくなって半べそをかき、結局スバルおじさんに助けってもらった。駆けっこをしても、いつもリリーの背中を見ながら走っていた。

リリー、待ってよ。僕は、そう言いつつ追いかけてリリーを追いかけたような気がする。そんな僕らを、萬子は穏やかな眼差しを向け静かな表情で見つめていた。やんちゃなリリーも、萬子を標的にすることは滅多になく、悪戯の対象は、決まってるような僕に絞られていた。

それでも、僕が常にやられたら嫌だったかというところではない。反旗を翻すことも、もちろんあった。そんな時は、取っ組み合いの喧嘩をした。僕も、リリーが女の子だからといって容赦はしなかった。争いが嫌いな萬子は、よく僕らの間に入って仲裁したものだ。けれどそうすると、僕とリリー両方から詰り寄り、最後に涙を流すのは決まって萬子だった。

③ それでも、僕は思う。

どんなにリリーにひどい悪さをされても、僕はリリーが憎くなるどころか、ますますそばに付いてあげなくちゃと思うようになっていった。それはきつと、空の国へと旅している時のリリーの横顔を、知っていたからかもしれない。

もうすぐ陽が沈んでしまうという夕暮れ時、ぼつんと一人縁側に座って空を見上げるリリーは、もう二度とこっちの世界には戻って来ないのではと心配になるほど儚かった。僕は思わず駆け寄って、その小さ

い背中にぎゅっとしがみつきたくなった。小学生にもなっていない僕にリリーを慰めることなどできなかつたけれど、独りぼっちのリリーは見ていると涙がこぼれそうほど淋しげな雰囲気を感じてた。まだ、僕もリリーも萬子も、幼稚園児の頃だ。ある雨上がりの午後、屋根から目を覚ますと、遠くの空に虹がかかっていた。「すごい、すごい、あれ見てー」リリーは寝ぼけ眼で、けれど興奮した声で虹を指さして言った。まぶたが、ぶつくりと腫れ上がっていた。「きれいだね」萬子がぼんやりとした声で答えた。「あれにつかまって、みんなでターザンごっこしようー」リュウ君、菊ちゃんに、ロープかりてきてー」リリーは目をキラキラと輝かせて言った。「無理だって」僕は言った。科学の絵本を読むのが好きだった僕は、その頃すでに、虹が蝶々やカブトムシやクワガタのように捕まえられることを知っていた。それでも、リリーは納得しなかった。

「行くの」そう言うと、さつさと勝手口から外に飛び出し、自転車にまたがって猛スピードで走り出した。仕方なく、僕と萬子も慌ててリリーを追いかけた。僕だけが、補助の取れない自転車。リリーは、山の方へ向けてどんどん自転車を走らせた。穂高は盆地で、お椀のように周囲を高い山に囲まれている。だから、恋路旅館のある中心地からは基本的にどこへ行くにも途中から坂道になった。山に向かう道には、大人達の死角になる場所がたくさんある。変質者が出るという情報も、常に絶えなかった。僕らが子供達だけで行くことを許されたのはせいぜい穂高神社までだ。けれどリリーは当然のように穂高神社の鳥居の脇を素通りし、そのまま踏切を越えて自転車を走らせた。

けれど、見晴らしのいい場所までたどり着いた時には、リリーがロープをかけてそこでターザンごっこをするための虹は、もうどこにも見あたらなかった。「虹、風に飛ばされちゃったんだよ」僕は、なんとかリリーを慰めたくて適当なことを言った。萬子がリリーの隣で、なぜか涙を浮かべていた。リリーは、じっと空を睨みつけていた。僕は幾度となくこの時のことを思い出す。ドリームにあつた広いベッドで三人ごちゃ混ぜになって昼寝をしていた時の、少し湿っぽいタオルケットの感じや、天井に広がるシミ、雨が上がった後のきつぱりと晴れ渡った空の青、はつきりと大きくコンパスで描いた弧のような巨大な虹。上り坂で自転車を漕いだ時の太ももの突っ張り具合や、リリーの着ていた黄色いブラウス、高台に吹いていた爽やかな風の匂いや、青々と茂っていた田畑の緑、ビデオの早送りのように、瞬時に姿を変える真っ白い雲。

きつとあつた時、僕は生きていたことを実感していたんだと思う。(小川糸「ファミリーツリー」による。設問の都合上、一部改変してある。)

(注) ※1 穂高：長野県西部、安曇野市北西部。  
※2 勝手口：台所の出入口。

問1 二重傍線部aのカタカナは漢字に直し、cの漢字を読みかへて書きなさい。(丁寧な書きこ)

a ボウケン c 縁側

問2 二重傍線部bの「反旗を翻す」と似た意味を表す熟語として最も適切なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。ウ 従順 エ 抵抗

問3 傍線部①「そういう考え」とあるが、どういう考えか。「く」という考え」に続く形で、本文中より「」で抜き出さない。

問4 傍線部②「僕と萬子は、おっかなびっくりリリーの後に続くのが常だった」のはなぜか。その理由として最も適切なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。ア 田舎では夏に外で遊ぶことはほとんどなく、リリーの新しいやり方に合わせるしかなかったから。イ 都会で生まれ育っているのに、リリーは穂高の自然や地形、昔の遊びについてとても詳しくあったから。ウ 田舎で生まれ育っている僕と萬子の方がひ弱で、屋外での遊び方をほとんど知らなかったから。エ 田舎の子供は都会の遊び方に対して臆病になり、特に未体験の遊びには慎重になるものだから。

問5 傍線部③「それでも、僕は思う」とあるが、この時の僕の思いを表現したものとして最も適切なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。ア リリーが心配でたまらずできるかぎりそばにいた。イ リリーがあまりにもやんちゃすぎて付き合いきれない。ウ リリーと萬子の間にどうしても入りたくてしょうがない。エ リリーと萬子と僕の三人で過ごす夏が何よりも大事な。

問6 傍線部④「ある雨上がりの午後」の出来事について、僕はどのように捉えているか。最も適切なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。ア リリーのわがままや突発的な行動に嫌気がさしたが、悲しみを分かち合うために仕方なくついていった。イ 虹を捕まえることは無理だとわかっていて、リリーの夢を壊さないために道案内するしかなかった。ウ 僕や萬子を巻き込むことに反発しながらも、虹が消えることで落ち込むリリーが心配でしかたなかった。エ 虹を捕まえることはできなかったが、リリーと萬子と過ごす夏の瞬間を体中で鮮やかに感じていた。

問7 次の文章は、本文の内容を説明したものである。空欄Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに当てはまる適切な語句を、本文中よりそれぞれ抜き出さない。

僕と萬子とリリーの三人が、豊かな自然の中で夏を満喫し、夢のような体験を過ごす様子について、Ⅰの視点を中心に描かれている。楽しい日々の中で、時折独りぼつちで空を見上げているリリーは淋しげな雰囲気を感じていた。

ある日、三人は虹を捕まえに出かけたが、たどり着く前に虹は消えており、僕はリリーをⅡのための言葉をかけるしかなかった。

経験を共有し、Ⅲを実感したあの夏の日を回想している。

【文章1】

東北地方の農村では古くから、「刺し子」と呼ばれる民芸がさかんだった。一針ひとはり、丁寧(ていねい)に施された刺繍は素朴で愛らしく、今でも手芸の一つとして親しまれている。だが、元はといえば、古くなった布を何枚も重ね合わせ、丈夫にするための工夫だった。

かつて、布は貴重品。庶民たちは、着物がすり切れて着られなくなっても、継ぎ合わせて別のものに生まれ変わらせ、ボロボロになるまで使い続けていた。為政者の側が、農民に貴重な木綿の使用を禁じ、麻しか身につけることができなかったため、繊維の荒い麻を一針ひとはり埋めることで、なんとか温かさを確保していた、という事情もあるようだ。

ものが豊富ではなかった時代は、そんな風に、服も、食べ物も、自分たちの手で作り、消費されていた。無駄にする余裕はなく、ものの寿命を全うするまで丁寧に使われた。

それは美化するにはあまりにも厳しい暮らしでもあった。天候不順による凶作や災害などの事態がひとたび起きれば、暮らしたちまち「立ちゆく」なくなり、命を落とす人も少なくなかった。

産業化が進むと、Iの生活は少しずつ形を変え、服や食べ物の製造の過程は大規模になり、分業化されていった。その恩恵は非常に大きい、と私は思う。先進国では、文字どおり有り余るほどの食べ物や流通している。万が一、天候不順などの問題が起きても、グローバルな枠組みの中で補うことが可能になった。高価だった衣料品の価格もどんどん下がり、安くて丈夫でおしゃれな商品が当たり前のように手に入るようになった。

一方で、私たちの手に届く商品からは、作り手の「顔」が失われていった。自分たちの衣食住に関わるものが、どこで、誰の手で、どのように作られているのかわからなくなってきた。さらに発展が進むと、製造の場は外国にも広がり、世界規模の分業体制が作り上げられた。作り手の姿はますます見えなくなってきた。消費しきれないほどの商品が作られ、捨てられていくが、私たちはどこで、どのくらいものが、どのように捨てられているかについて、ほとんど目にする機会がなく、暮らしていくことができる。この世界規模の分業体制は、多様な選択肢の中から「買う」という行為を通して「選ぶ」ことができる。側」と、安い製品を作るために安い賃金しか支払われず、それでもその労働をすることでしか生活が成り立たないという、「選ぶ」ことができない側」が、対になることで成り立っている。IIの人が「安い」と思える価格で、たくさんさんの選択肢を用意するためには、誰かが安い労働力を提供する必要があるからだ。

【中略】

大量生産の商品は、顔の見える誰かが作った服に比べれば、価値が低いもののように扱われている。もしかしたら、生産に関わっている本人も、何万もある工程の一つを担っただけの商品に対する愛着は薄いかもしれない。生産にかかわる人たちも、消費する側も、「簡単に捨ててよい」という感覚になってしまっている。

移り変わる流行に合わせて、服を簡単に取りかえられる生活は、私たちが豊かにしたのだろうか。最近、たくさんさんのものに囲まれた暮らしに対して、疲弊(へいひ)しはじめたという声も聞くようになった。「買う」という行為は、人をハイにしてくれる。「ほいほい」が手に入った「だけ」ではなく、「他より安く手に入った」「お得感がある」「他の人と差別化できる」「とりあえず在庫を確保して安心する」など、理由はいろいろある。だが、家に帰ってその蓄積と向き合うと、「なぜこんなに買ってしまったのだろう」と罪悪感が募り、捨てきれずにあふれたものを前に、げんなりする。そんな経験を持つ人は少なくないだろう。

(仲村和代 藤田さつき「大量廃棄社会」による。設問の都合上、一部改変してある。)

【文章2】

あなたは、普段買い物をする時、どんな理由で買う商品を決めていますか？

「安いから」「まともな買いはお得だから」と、つい必要のないTシャツや下着を何枚も買う。「バーゲンだから」「流行っているから」と買う予定のなかった服も買ってしまっ。

そんなことはありませんか？ 何を隠そう、私自身も、以前はそんな買い物をしていました。けれど、そうやって買った安い服は結局すぐダメになってしまったり、ほつれてしまいました。また、流行の服は、シーズンが変われば袖を通すことがなくなり、結局処分することになりました。一言で言うと、あまり大切にはしなかったのです。

でもよく考えると、以前は「買いたくて買う」というよりも、雑誌の情報や広告におおられて「買わされていた」部分も大きかったように思います。

もちろん、おしゃれや面白い物はいつでも楽しみたいもの。流行を意識していたし、少しでもお得な買い物をしたと思うのは当然です。

III何かを買う時に、一息おいて、「ちょっと待って」と自分に問いかけてみることもとても大切です。「なぜこれを買うの？」「本当に必要かな？」「この商品は、どんな環境で作られたんだろう？」と、それが「エシカル」の第一歩です。この洋服を買うことで、どんな影響があるんだろう？ 作っている人たちにどんな結果が及ぶのかな、と考えてみる。この姿勢は「消費者としての目を磨くこと」につながります。「影響をしっかりと考える」「ことの中に「エシカル」はありますか？」③

そのように吟味して買ったものは、自分ともの間に特別なつながりが生まれます。ストーリーと言ってもいいかもしれません。きつと大切に使いたくなると思います。

(末吉里花「はじめてのエシカル」による。設問の都合上、一部改変してある。)

(注) ※1 エシカル…倫理的な、道徳的な、を意味する語。

問1 【文章1】中の「I」で囲まれた「立ちゆく」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 品詞名を次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。
- ア 名詞
- イ 副詞
- ウ 形容詞
- エ 動詞

(2) 「くなくなり」に続くように、適当な形に直しなさい。

問2 【文章1】空欄 I には、二重傍線部「服も、食べ物も、自分たちの手で作り、消費されていった」という意味を表す四字熟語が入る。漢字で答えなさい。

問3 【文章1】空欄 II に入る語句を本文中より三文字で抜き出しなさい。

問4 【文章1】傍線部①「作り手の「顔」が失われていった」とあるが、その説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 日用品を作る人たちの知名度が、産業化以前に比べて、急激に下がったということ。
- イ 服や食べ物を作る人たちが、世界規模の分業体制の中で、青ざめているということ。
- ウ 身の回りの商品が、どのような過程で作られたかが、見えにくくなったということ。
- エ 衣食住に関わるものが、グローバルな枠組みの中で、購入しやすくなったということ。

問5 【文章1】傍線部②「疲弊しはじめた」とあるが、その理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア 海外で作られたものを、大量に安く購入することに申し込めなさを感しているから。
- イ 様々な理由で買ってしまったものを、捨てきれずにうんざりしているから。
- ウ 流行に合わせて買ったものが、時代遅れになることに焦りを感じているから。
- エ 分業体制で作られたものが、価値の低いものとして扱われることに心を痛めているから。

問6 【文章2】空欄 III に当てはまる接続表現として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

- ア あるいは
- イ しかし
- ウ つまり
- エ だから

問7 【文章2】傍線部③「ストーリー」とあるが、これと同じ意味で使われている言葉を、【文章1】より三文字で抜き出しなさい。

問8 エシカルな消費者になるために必要なことを、【文章1】【文章2】を関連させながら、「大量生産」「影響」という語句を用いて、「く」が必要である。「く」に続く形で、三十五字以上五十字以内で答えなさい。

三 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

室町時代に古典芸能の一つである能を大成させた世阿弥は、その奥義を子孫に伝えるため、「風姿花伝」という本を著した。その中で、能役者の人生を子供から老人に至るまでの七段階に分け、それぞれの年代に応じた稽古の在り方を説いている。次の文は十二、三歳の頃について述べたものである。

この年の頃よりは、はや、やうやう声も調子にかかり、能も心づく頃なれば、次第次第に物数をも教ふべし。  
 まづ、童形なれば、何としたるも幽玄なり。声も立つ頃なり。二つの便りあれば、悪き事は隠れ、愛らしい子供の姿なので、と演じても美しい。  
 よき事はよいよい花めけり。  
 おほかた、児の申樂に、そのみに細かなる物まねなどはせさすべからず。当座も似合はず、能も悪しき事。  
 上がらぬ相なり。ただし、堪能になりぬれば、何としたるもよかるべし。児といひ、声といひ、しかも上達しない結果を短。その子び、稽古上手であるならば、そのまじりに演じてもよいなるべし。  
 上手ならば、何かは悪かるべし。  
 さりながら、この花はまことの花にはあらず。ただ時分の花なり。されば、この時分の稽古、すべてすべし易きなり。さるほどに、一期の能の定めにはなるまじきなり。  
 文字にまはさばと当たり、舞をも手を定めて、大事にして稽古すべし。  
 一字一手を、まじりて、稽古して、聖をじりかり身にこぼれ、注懸深へ。

〔注〕※1 幽玄：ここでは、少年の可憐さに象徴される美しさを。  
 ※2 児の申樂：少年の演じる能。  
 ※3 花：能芸の魅力。  
 (一)風姿花伝による。設問の都合上、一部改変してある。  
 【書き下し文】  
 君に勤む金屈厄  
 満酌辞するを須あず  
 花発いて風雨多く  
 人生別離足る  
 【現代語訳】  
 君にすすめよう、この黄金の杯を  
 杯になみなみとつがれた酒を遠慮する必要はない  
 花が咲くと風雨にさらされることが多くなるように  
 人生というものは別れが多いものだ  
 (一)唐詩選による。

四 次の漢詩および【資料】を読んで後の問いに答えなさい。

勸酒  
 勸君金屈厄  
 満酌不須辞  
 花発多風雨  
 人生足別離  
 于武陵  
 【現代語訳】  
 君にすすめよう、この黄金の杯を  
 杯になみなみとつがれた酒を遠慮する必要はない  
 花が咲くと風雨にさらされることが多くなるように  
 人生というものは別れが多いものだ  
 (一)唐詩選による。

【資料】

作家・井伏鱒二は、多くの漢詩を翻訳した。次は、「勸酒」の訳詩である。

コノサカツキヲ受ケテケレ  
 ドウゾナミニミツガシテオクレ  
 ハナニアラシノタトヘモアルゾ  
 「サヨナラ」ダケガ人生ダ

(一)厄除け詩集による。

問1 二重傍線部「心」の字を次のように行書体で書いた。楷書体で書いた時と比べてどのような特徴があるか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。  
 ア 点画が連続しなめらかである。  
 イ 点画が連続し角張っている。  
 ウ 点画が明確で直線的である。  
 エ 点画が明確で丸みがある。

問2 二重傍線部「おほかた」を、現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問3 傍線部①「二つの便り」とあるが、二つの組み合わせとして正しいものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。  
 ア 声と能  
 ウ 姿と声  
 イ 姿と児  
 エ 声と花

問4 傍線部②「細かなる物まねなどはせさすべからず」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。  
 ア 細かい物まねはもっと幼い子がやるものだから。  
 イ 物まねは格別上手な子だけがするべきだから。  
 ウ 隠れていた欠点が目立ってしまうことになるから。  
 エ 将来、能が上手にならないうちから。

問5 次の文章は、本文の内容をまとめたものである。空欄Ⅰ、Ⅱに当てはまる語句を、本文中よりそれぞれ抜き出して答えなさい。  
 十二、三歳の頃の「Ⅰ」は本当のものではなく、一時的なものだから、そこで生涯の能のよしあしが決まるわけではない。だから、この頃は動作や歌唱、舞などの「Ⅱ」をしつかり稽古することが大事である。

問1 この漢詩の形式を漢字四字で答えなさい。

問2 【資料】の傍線部①にあたる言葉と、漢詩の中から抜き出して答えなさい。

問3 次の会話は、漢詩の【現代語訳】と【資料】を読み比べ、生徒たちが話し合ったものである。これを読み、後の問いに答えなさい。

A ほとんどカタカナで書かれている詩なんて今まで読んだことがなかったから驚いたな。  
 B そうね。でも、よく読んだら、なんだか親しみやすい感じがするわ。  
 C 【資料】は文末の語句を「クレー」「アルン」など、Ⅰを使って書いていることだ。  
 D それに、短歌や俳句のリズムと同じようにⅡ 音とⅢ 音の組み合わせになっているところも、親しみやすい理由なのかもね。

(一) 空欄Ⅰに当てはまる語句を、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。  
 ア 話し言葉  
 ウ 丁寧語  
 エ 謙讓語  
 イ 書き言葉

(二) 空欄Ⅱ、Ⅲに入る数字をそれぞれ答えなさい。ただし、順序は問わない。

問4 【資料】の訳詩の特徴を説明したものと最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。  
 ア 二行目を「ドウゾナミニミツガシテオクレ」と表現することで、この詩の作者の身分が低いことを象徴している。  
 イ 四行目で「サヨナラ」ダケガと誇張することで、人生には別れがつきものであることを印象つけている。  
 ウ 全体的に歴史的仮名遣いを多用することで、この詩が日本古来のものであることを感じさせる。  
 エ 全体をカタカナ表記にすることで、この詩の情景が日本人にとってなじみの薄い世界観であることを表している。

【五】 生徒会長選挙に立候補した美穂さんは、候補者演説の内容を考えるために三人の友人に集まってもらった。次の【話し合い】は、過去の候補者演説の動画と原稿である【資料1】、【資料2】を参考にし、より良い演説に向けて話し合っている場面である。これを読んで後の問いに答えなさい。

【話し合い】

美穂 「みんな集まってくれてありがとう。早速だけど、候補者Ⅰと候補者Ⅱの演説で何か気がつくことがあれば教えて。まずは候補者Ⅰの動画から再生するね。」

【資料1】過去の候補者Ⅰによる演説動画の原稿

みなさんこんにちは。私は現在、所属する部活動で部長を務めています。私が部長として心がけていることは、一日一日の積み重ねを大事にすることです。毎日の練習をただ繰り返すのではなく、部員一人ひとりが目的意識を持って活動し、毎日少しずつでも成長するように声かけすることを大事にしています。その成果が現れたためか、最近の県大会では三位に入賞することができました。他にも、今まで何度も学級委員長を務めたり、地域の子ども会でもリーダーを任せたりしました。生徒会長になった際にも、きっとこれらの経験を生かせるはずですよ。どうぞ、私に清き一票をよろしくお願いします。

美穂 「どうだった。」

鉄也 「候補者Ⅰは自分の経験をうまくアピールしているね。この人なら生徒会長を任せても大丈夫だって気持ちにさせられるな。」

美穂 「確かに。県大会での実績やこれまでのリーダーとしての経験があつて、なんだかすごくそうね。」

幸太郎 「だけど……僕はなんだか候補者Ⅰは自分の話ばかりしている印象を受けるんだよね。」

鉄也 「候補者Ⅰは、豊富な経験を生かしてどんな学校にしたいんだろう。」

花菜 「そうだね。生徒会長としてどんな学校にしていきたいのかっていう全体像が見えないね。」

美穂 「それが入っていると、投票する人はより選びやすくなるってことね。じゃあ次は、候補者Ⅱの動画を再生するね。」

【資料2】過去の候補者Ⅱによる演説動画の原稿

みなさんこんにちは。さて、みなさん。ここ最近、新型コロナウイルスの影響で学校はもちろん、社会全体が暗いムードに包まれています。そこで私は、私たち若い世代にできることは何かを考えてみました。その結果、まずは学校生活から明るくしていこうと思えました。そのためには皆さんの協力が絶対に必要です。まずはこの学校から明るい雰囲気作りを始めてみませんか。私たちの青春を元気で笑顔あふれるものにしませう。是非、私に生徒会長をやらせてください。みなさんのご協力、どうぞよろしくお願いします。

花菜 「私は候補者Ⅰと比べて、候補者Ⅱの方が良い内容だと思つたわ。聞いていてなぜかとても理解しやすかつた。この人が生徒会長だったら、協力したいなって気持ちになつたよ。」

幸太郎 「そうかな……。明るく元気があふれる学校にしたいって思いは確かに伝わるんだけど……。なんだかよく分からなかつた。」

花菜 「熱い思いが伝わるだけでは、演説として何かが足りないってことね。でも、何が足りないんだろう……。よく分からなかつたって言うだけじゃなく、それってどういふこと。」

幸太郎 「うーん、笑顔があふれるって良いことだとは思うけど……。『元氣』とか『笑顔』ってどうしたらなるんだろう。」

鉄也 「なるほど。つまり、それって候補者Ⅱの演説内容は [ ] だね。」

花菜 「あ、そう言われればそうかも。現実的にどんな取り組みを実行するのが聞きたいな。」

美穂 「なるほどね。みんなありがとう。どちらも良いところと足りないところがあるってことね。どんな演説をしたらいいのが見えてきた。私、頑張るね。」

問1 美穂さんは、傍線部①「自分の話ばかりしている」という指摘を受けて、自分の演説に内容を追加することにした。追加する内容として最も適当なものを、【話し合い】の流れを踏まえて次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア この学校の良い点や問題点を指摘する内容。  
イ これまで苦労した経験から学んだ内容。  
ウ 他の学校の良い事例を紹介する内容。  
エ どんな学校にしていきたいかという内容。

問2 傍線部②「なぜかとても理解しやすかつた」について、花菜さんが理解しやすいと感じた理由として何が考えられるか。適当でないものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 伝える相手を明確に意識して、一貫した主張になるように話していること。  
イ 聞かれたり呼びかけたりする話し方で、聞き手が共感しやすいうように話していること。  
ウ 複数の観点から意見を述べ、よりよいものを選びながら話していること。  
エ 広く大きい問題から、身近な問題についての順番になるように話していること。

問3 傍線部③の花菜さんの発言は、話し合いを進めるうえでどのような意図があるか。最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 相手の意見に共感し、自分の意見と合わせてまとめる意図。  
イ 他の意見と比較して、共通点や相違点を明確に整理する意図。  
ウ 相手の発言を掘り下げて、その発言の意味を明確にする意図。  
エ 相手と反対の意見を述べ、話し合いの内容をより深める意図。

問4 空欄 [ ] に入る鉄也さんの発言として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び記号で答えなさい。

ア 目指したい学校像は述べられているけれど、それを表現するための具体的な事例が述べられていないということがあるけれど、社会問題を引き合いに出しているけれど、うちの学校とどんな関係があるのかが分からないということがあるけれど、生徒みんなの協力を求めているけれど、私たち一人ひとりにできることは限られているということがあるけれど、

エ 全体的に明るいイメージを打ち出しているけれど、必ずしも「元氣」や「笑顔」が必要だとは限らないということがあるけれど、

国-9

問5 生徒会長選挙に向けて、ある二人の候補者がそれぞれキャッチコピーを考えた。AとBそれぞれのキャッチコピーからどのような意図が読みとれるか。また、あなたならAとBのどちらが良いと思うか。選んだ理由を含めて、次の〈条件1〉～〈条件4〉に従って書きなさい。  
※後の「**注**意点」を参考にして答えること。

A この学校は私が輝かせる

B あなたの思いに寄り添います

- 〈条件1〉 二段落構成で、一五〇字以上一八〇字以内の文章にすること。
- 〈条件2〉 原稿用紙の適切な使い方に従い、漢字や仮名遣い、句読点や記号などは適切に用いること。
- 〈条件3〉 第一段落ではそれぞれのキャッチコピーの意図について読み取れることを、注目した語句を示して書くこと。
- 〈条件4〉 第二段落ではどちらのキャッチコピーが良いと思うかを明記し、選んだ理由を具体的に書くこと。  
(なお、どちらかを選んだかで、採点を差がつくことにはない。)

**注**意点

解答する際、次のことに注意すること。

- ・ 題名や氏名は書かず、本文から始めること。
- ・ キャッチコピー全文の引用はせず、Aは……、Bは……のように表現すること。